高麗大学校グローバル日本研究院・日本近現代女性文学研究会〈日本近現代女性文学選集〉全18巻

Jaejin YU (兪在眞 : Professor, Department of Japanese Language & Literature, Korea University.)

✉ jaejin@korea.ac.kr

(韓国)高麗大学校文科大学日語日文学科教授。日本近現代文学専攻。主著に共編著書『異郷としての日本ー東アジア留学生の見た近代』(東京: 勉誠出版, 2017)、共著『在朝日本人日本語文学史序説』(ソウル: 亦楽, 2017) など。

The Association of Modern Japanese Women's Literature in the Global Institute for Japanese Studies at Korea University : *The Modern Japanese Women's Literary Anthology* (in 18 volumes)

After founding the Association of Modern Japanese Women's Literature, the Global Institute for Japanese Studies at Korea University published *The Modern Japanese Women's Literary Anthology* (in 18 volumes) as part of the Japan World Fair Memorial Fund Project in 2018. By including a huge range of material, from the early modern works of Ichiyo Higuchi to the works of Okinawa's leading female writer Tami Sakiyama, this anthology is a rich resource for anyone seeking a greater understanding of the trajectory and development of modern Japanese women's literature. In addition, it concludes with not only translated novels and poems but also academic papers on modern Japanese literature. These academic papers include a discussion of previous Japanese women's literature as well as an in-depth examination of new issues in this field that can most productively be examined under the rubric of "women's literature".

Keywords Japanese Women's Literature(日本女性文学), East Asian Women(東アジアの女性), Gender(ジェンダー)

高麗大学校グローバル日本研究院は日本近現代女性文学研究会を発足し、2018年日本万国博覧会記念基金事業の一環として全18巻に至る〈日本近現代女性文学選集〉を企画刊行した。この選集は明治初期の樋口一葉から現代沖縄文学を代表する女性作家、崎山多美に至るまで日本の近現代における女性文学の流れと展開が一望できるように構成されたシリーズ物である。この選集は、小説や韻文の作品翻訳に留まらず、シリーズの最終巻に飯田祐子の『彼女たちの文学—語りにくさと読まれること—』（名古屋大学出版会、2016）を収録し、この選集で紹介した「女性文学」を通して如何なる新しいアジェンダが提示できるのか、最新の女性文学研究動向が分かるよう研究書を共に翻訳刊行している。

〈日本近現代女性文学選集〉の刊行趣旨をここで簡単に紹介しておこう。「日本の女性文学が近代以後、量質共にかなり蓄積され、同じ東アジア文化圏を生きてきた韓国女性生活、文化、文学とも密接な関係を有しているにも拘らず、未だその全体が眺望出きるような体系的な全集が韓国で刊行され

ていないという問題意識から本選集は企画された。本選集によって近代人としての自我覚醒やジェンダー、セクシュアリティ、階級、原爆、戦争、植民地体験など、日本の女性文学が手がけてきた様々な主題を体系的に網羅し、韓国の女性学、女性文学研究者、さらに一般読者が似たような経験をしてきた韓国女性の生と文学を思惟する際の助けになるよう構成しようと努めた。（省略）本選集は日本の女性文学を理解するのに留まらず、韓国をはじめ東アジアの女性文学を網羅するジェンダー的思惟を発見し、新たな解釈の地平を開いていく呼び水になることを願う。」

この選集に関する評価としては何よりも韓国ではじめて日本近現代女性文学を選集というシリーズ物の形態で翻訳紹介している点であろう。韓国読書界での日本小説の翻訳本は、近年の日韓関係の悪化という両国交流の難航にも拘らず、よく読まれ、多様な作品が翻訳紹介されているが、日本女性文学の流れと全貌が把握できるシリーズ物は本選集が最初である。この選集の刊行を契機に日本女性文学が韓国で広く読まれ、且つ深く理解されることで国境を越えた共感帯が韓国の読書界で形成されることを期待する。この選集は日本女性文学を体系的に網羅しているが作家やテーマの選別に当っては、「植民地期の朝鮮経験」、「原爆」、「沖縄」など受容する側の独自の観点を介入しているのもユニークである。ただ、作家の選別に当って近代作家に片寄った感があり、松浦理英子、津島祐子、大庭みな子、水村美苗、多和田葉子など現代の主要

な女性作家が抜けているのが、少し残念である。

《日本近現代女性文学選集》の構成は以下のとおりである。

- 第1巻 金孝順編訳『日本近現代女性文学選集：樋口一葉』
- 第2巻 金華栄編訳『日本近現代女性文学選集：与謝野晶子1』
- 第3巻 嚴仁卿・李慧媛編訳『日本近現代女性文学選集：与謝野晶子2』
- 第4巻 李相福・崔殷景編訳『日本近現代女性文学選集：田村俊子』
- 第5巻 蘇明仙編訳『日本近現代女性文学選集：野上弥生子』
- 第6巻 崔佳亨編訳『日本近現代女性文学選集：岡本かの子』
- 第7巻 李相福編訳『日本近現代女性文学選集：宇野千代1』
- 第8巻 趙柱喜編訳『日本近現代女性文学選集：宇野千代2』
- 第9巻 李相福・金華栄訳『日本近現代女性文学選集：宮本百合子1』
- 第10巻 陳明順編訳『日本近現代女性文学選集：宮本百合子2』
- 第11巻 金孝順訳『日本近現代女性文学選集：林芙美子1』
- 第12巻 金孝順・呉聖淑編訳『日本近現代女性文学選集：林芙美子2』
- 第13巻 宋惠敬編訳『日本近現代女性文学選集：佐多稲子』
- 第14巻 崔殷景編訳『日本近現代女性文学選集：円地文子』
- 第15巻 李相福編訳『日本近現代女性文学選集：平林たい子』
- 第16巻 呉聖淑編訳『日本近現代女性文学選集：大田洋子』
- 第17巻 孫知延・任ダハム編訳『日本近現代女性文学選集：崎山多美』
- 第18巻 金孝順・孫知延訳『日本近現代女性文学選集：彼女たちの文学』